

森のニュース 2

～平成23年度治山林道施策と予算について～

はじめに

神奈川県森林協会会員の皆様には、日ごろから神奈川県の森林・林業行政の推進に多大なるご支援、ご協力を賜り、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、県の平成23年度予算は、850億円の財源不足といった厳しい財政状況と、4月の知事選挙の実施を踏まえた「骨格予算」として予算編成がなされました。

「骨格予算」は、県民生活に配慮すべき施策、既定の方針に基づく事業や政策的な継続性を重視する事業、国の経済対策に対応した事業等、現下の経済・雇用情勢や喫緊の課題を踏まえた対応となっています。

一方、国の公共事業については、「新成長戦略」に基づいた大幅な予算の組替えや、行政刷新会議の決定を受けた予算の使途や支出について改善を検討する「行政事業レビュー」を反映した予算が概算決定されました。

林野公共事業においては、林道事業や造林事業を含む「森林整備事業」が事業単価等の見直し、「治山事業」については、優先度に応じた事業の重点化等採択の見直しがなされ、更に、これまでの補助金や農山漁村地域整備交付金の一部が地域自主戦略交付金として一括化されました。

こうした状況のなか、平成23年度治山・林道事業予算は、総額16億2千万円、対前年比68%が配分され、治山費が9億1千4百万円、林道費が7億7百万円と、それぞれ前年対比64%、70%となっています。

このうち治山費においては、治山事業（公共）が8億6千万円、治山事業（単独）が5千1百万円配分され、県下41箇所、うち新規4箇所で治山対策を実施します。

主な新規箇所としては、山北町山市場（芝安戸）と同町川西（透間）において、昨年9月8日に台風第9号によ

り被災した溪流で、治山ダム工等の復旧対策を行います。

また継続箇所として、箱根町元箱根（蛇骨川上流）では、平成17年に発生した駒ヶ岳東斜面の地すべり災害の源頭部で長さ30m内外のアンカーで不安定斜面を固定する対策や、相模原市緑区青根（日蔭沢下流）における平成19年の台風により荒廃した溪流の復旧など、被災森林の早期復旧等に取り組みます。



千戸沢治山工事

林道費については、林道開設等の公共事業が4億9千万円、林道改良等の単独費が1億7千万円配分され、開設3路線4工区、改良9路線で事業を実施します。

重点事業として、平成19年1月から通行止めになっている山北町玄倉の県営林道玄倉線2号隧道の付替工事について、今年度の完成を目指し集中的に取り組みほか、湯河原町の白銀線、清川村の唐沢線において、法面保護工や落石防護施設工などの林道改良を計画的に取り組みます。

林道開設事業としては、南足柄市矢倉沢の松山線ほか2路線、総延長825mの新設に取り組みます。



薬師林道改良工事

おわりに

平成22年9月8日、台風第9号に伴う記録的な豪雨により山北町世附を中心に、県営、町営の林道が、30路線161箇所、林地が人的被害3名を含む106箇所18haが被災しました。復旧は、林道事業・治山事業ともに国の災害補助制度を活用し、林道の通行機能の復旧、荒廃林地の復旧に鋭意取り組んでおります。被災地域の森林・林業関係者には、多大なご不便や不安をおかけしておりますが、順次、森林・林業のインフラである治山・林道施設を復旧してまいりますので、今しばらくのご猶予を頂ければ幸いです。

今年度は、国の「林業・森林再生プラン」実行の初年度にあたり、県においても森林循環による持続的な人工林の再生を目指す「林業再生総合対策事業」がスタートします。

これら施策推進のためには、森林を保全する治山事業、生産基盤整備である林道事業が、しっかりと支えていなければなりません。

近年の国・県の厳しい財政状況により、治山・林道事業は年々前年比割れと縮小しておりますが、少ない予算の中でも、緊急度、優先度を勘案し、必要な箇所を適切に実施してまいります。

今後とも会員の皆様には、治山・林道事業の着実な推進にご支援賜りますようお願い申し上げます。

(環境農政局 水・緑部

森林再生課 基盤整備グループ)